

季刊

2009年 春号/第22号

海堡

kaihou

東京湾海堡ファンクラブニュース

No.22

編集・発行/東京湾海堡ファンクラブ  
会長 小坂一夫

発行日/2009年5月25日

題字は、明治39年10月1日陸軍大臣寺内正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。  
紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

目次

- 第2回ふつつ海堡まつり報告
- 海堡シンポジウム報告
- シンポジウム「品川台場と東京湾海堡」  
開催にあたって 高橋 悦子
- シンポジウムを開催して 西田 好孝
- 浜田代議士事務所陳情報告 小坂 一夫
- 富津市長陳情報告 小坂 一夫
- 東京湾海堡ファンクラブ会長にお願い  
安室 真弓
- 旧陸軍砲台跡保存へ 神奈川新聞
- 総会開催日のお知らせ
- ファンクラブのシンボルマーク

当ファンクラブは、昨年に引き続き、海堡コーナーで海堡の歴史を紹介する展示を行いました。



東京湾海堡ファンクラブによる海堡コーナー

第2回ふつつ海堡まつり報告

2008年7月26日（土）、ふつつ海堡まつりが開催されました。開催の様様を写真でご報告いたします。



ひよっこ踊り



挨拶する吉本充県議



## シンポジウム「お台場と東京湾海堡」 開催にあたって

東京湾海堡ファンクラブ 幹事 高橋悦子

品川台場は、歴史家にはかねてから有名であったが、ウオーターフロント開発後、品川台場周辺は「お台場」といわれ、多くの人で賑わい、広く知られるようになった。過日、東京臨海新交通臨海線（ゆりかもめ）に乗っていたところ、近くに乗り合わせた20歳くらいの男女が品川台場を眼下に見つけ、「あの島はなんだろう。」と話をしていた。このように、「お台場」に集まってくる人々の目的は、フジテレビやショッピングモールであるかもしれないが、実際に現地に行くと、品川台場は歴史をもった存在感で、私たちを引きつけるものがある。

さらに、この品川台場とまったく同じ思想のもとで建設され、いわば、兄弟の存在といえる人工の島が東京湾口にあると聞けば、驚く人も多いのではないだろうか。

品川台場と東京湾海堡の関係は、ペリー来航前の天保10年(1839)、伊豆菰山(にらやま)の代官・江川太郎左衛門(1801~1855)が江戸幕府に対し、海岸防御計画を提出したときから始まる。このとき、江川の防御計画では、観音崎と富津岬を結ぶ防衛線が最も重要としている。その測量製図を和算家の内田五観(いつみ)(1805~1882)が引き受けている。

そして、ペリー来航後の嘉永6年(1853)に作成された江川の意見書においては、観音崎と富津岬の間に9個の海中台場を建設することを検討し、品川沖の台場建設は最後の護りとしている。すでに東京湾口の海堡建設の検討がなされていたわけであるが、東京湾口は水深が深く、費用と年月がかかるために見送られ、品川沖に台場が建設されることとなった。この品川台場の設計・施工の中心となったのが江川であった。第一、第二、第三台場は嘉永6年8月28日(1853.10.1)に着工、嘉永7年7月9日(1854.8.2)に竣工、第五、第六台場は嘉永7年3月11日(1854.4.8)に着工、同年12月15日(1855.2.1)に竣工している。第四と第七台場は未着工だった。

品川台場建設後の安政2年(1855)ころ、後に海堡建設に従事する西田明則(1828~1906)は、内田五観の「瑪得瑪弟加(まてまてか)」と名付けられた和算の塾に入門し、西田は和算と測量技術を学んでいる。このとき、西田は内

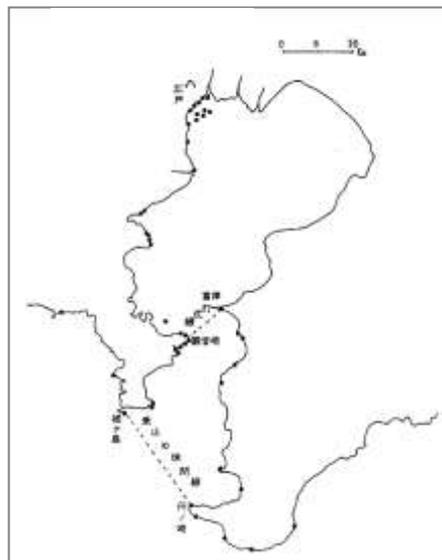
田から、江川の計画した観音崎と富津岬の間の9個の海中台場について、話を聞いた可能性は十分に考えられる。江川と内田と西田が繋がり、すなわち、品川台場と東京湾海堡が、建設した関係者によって繋がっていることがわかる。東京湾海堡を品川台場とともに説明すると次のようにまとめられる。

- ①江戸を護るために、観音崎と富津岬の間に海中台場(海堡)建設を計画していたが、技術的に難しく断念し、品川台場を建設した。
- ②明治以降、用語が変わり、それまで台場と言われていたものが砲台と言われ、人工の島に創られた砲台を海堡と言うようになった。
- ③東京湾海堡は、品川台場を建設した江川太郎左衛門によって、当初、計画されていた。また、建設に従事した関係者が和算によって、繋がっていた。

つまり、品川台場と東京湾海堡の原点は同じであるといえる。

「お台場」周辺の賑わいの一因に、台場が眺望の位置として、優れたポテンシャルを有していることがある。城址が優れた眺望のポテンシャルがあるのと同様、砲台(海堡も含む)は、防衛をするために先人が知恵を結集して定めた場所であるからだ。残念なことに、東京湾海堡は、東京を護るために建造されたにもかかわらず、東京から離れた場所にある。実際に、東京湾海堡に上陸すると、東京湾口の素晴らしい眺望に驚く。

東京都をはじめとして、首都圏の人々に東京湾海堡について関心をもってもらうには、品川台場が突破口になるのではないかと。品川台場、観音崎などの沿岸砲台群とともに、東京湾砲台群の世界遺産登録に向けて、東京湾海堡ファンクラブは取り組んでいる。



原剛『幕末海防史の研究』(株)名著出版、1988.7.8  
江戸湾台場配置図



2004年4月撮影  
品川第六台場

#### 【引用参考文献】

国土交通省関東地方整備局東京湾口航路事務所『東京湾第三海堡建設史』2005.3.16、p.104-p.113、p.219-p.221

## シンポジウムを開催して

### 西田顧問の閉会挨拶

西田好孝顧問は、シンポジウム「お台場と東京湾海堡」閉会時の挨拶で、次のように開催の手応えを語りました。

「お台場・海堡ともに首都防衛が目的で建設されたところから、東京・千葉・神奈川の一都二県で共同管理をしたらと考えておりましたので、本日の催しが企画されました。

今回のシンポジウムで多くの方にアピールできたものと嬉しくなりました。世界遺産登録について取り組む機が熟して参りました。」



シンポジウム講演会風景

(2008年8月30日 東京ビッグサイト)

(シンポジウムの講演会の資料は、次号掲載予定。)

## 浜田代議士事務所陳情報告

会長 小坂一夫

日時 2008年10月25日(土)午後2時  
場所 木更津市吾妻 浜田靖一事務所  
訪問先 浜田靖一防衛大臣 三木千明秘書  
参加者 小坂一夫(会長)、田中富蔵(副会長)  
竹内洋(富津市議)、安室真弓(幹事)

### 【防衛省に対しての要望事項】

(1) 第一海堡の不発弾調査を実施していただきたい。

第一海堡は、海堡内に不発弾がある危険性が否定できないとの理由で、上陸の許可がいただけない状態です。第一海堡の不発弾の調査を防衛省で実施していただき、立入許可できる環境づくりをお願いいたします。

(2) 第三海堡の遺構保存をしていただきたい。

国土交通省によって行われていた第三海堡の撤去工事は、平成19年度をもって終了しました。第三海堡は、水深-23mより深い部分は残っていますが、兵舎やケーソンなどの大型構造物は、すべて海中から引き上げられました。引き上げられたものは、漁礁として利用するため、航路の障害にならない場所にほとんどが沈められましたが、2008年8月現在、横須賀市追浜にある展示施設には、①探照灯の施設、②地下通路、③観測所、④砲台砲側庫(砲台弾薬庫)の四つの遺構が保存されています。

展示施設は民有地にあり、遺構の保存では、置き場所が最も重要な課題となっています。四つの遺構は、いずれも188~907トンの重量物であることから、陸上輸送ができません。そのため、設置する場所の条件は、海上から台船に載せたクレーンでアームの届く範囲(水際から25m程度)と限定されます。さらに、陸地の前面の水深についても条件があり、水深が浅いと台船が近づくことができないため、接岸するのに十分な深さが必要です。

この遺構の保存をめぐる、展示施設の地元・追浜から継続を希望する声があがり、2007年1月、元関東学院大学教授・昌子住江会長のもと、東京湾第三海堡遺構保存連絡会議が発足しました。東京湾第三海堡遺構保存連絡会議は、追浜商盛会を中心に、地元の工業会や郷土史の研究会など9団体が保存活動に賛同する形で構成されています。

このような活動の結果、追浜展示施設は継続されていますが、平成21年度までの一時保存となっています。展示場所の

候補地があがりましたが、横須賀市が所有する土地は、それぞれ目的が定まっているため、使用目的の変更をしなければならぬ状況です。使用目的の変更は、市議会での承認のほか、国の関係機関との調整・承認が必要で、現在、横須賀市は保存しない方針を出しています。

当会としては、遺構を横須賀市に限定はせず、永続的に保存できる方法を模索しております。第三海堡は国土防衛の歴史の一つであり、その遺構保存についてご理解をお願いいたします。

以上



**【陳情報告】**

当初は10月26日(日)の予定だったが、その日は、事務所の都合が悪くなり、25日(土曜日)に変更となった。訪問前は、浜田代議士不在と聞いていたが、三木秘書の配慮により、本人に面会することができた。

別紙の通りの陳情書の要点を小坂が三木秘書立会いのもと説明した。代議士は、趣旨は理解してくれたが、「地元の富津市から何もないと困る。」と言われた。30分ほどで終わった。資料『濤』(国交省)と「第三海堡構造物」のカラーコピーを置いてきた。

明けて10月27日(月)、富津市役所総合政策部平野次長を訪ね、事情を説明した。「文化庁の答申はまだか」と聞かれた。第三海堡の遺構の件は、商工観光課に話を通したほうが良いということになり、商工観光課・島野課長に話を

した。同日富津市観光協会富津支部の松本支部長にもコピーを渡した。10月30日に理事会があるからこの資料がほしいといわれ、事務局の高橋さんにコピーを送付するようお願いした。松本支部長は、乗り気だったが、11月までに富津公園の指定管理者が決まるので、決まったら富津公園内へ置ければ良いということだった。

**富津市長 陳情報告**

会長 小坂一夫

日時 2008年12月16日(火) 午前9時から9時45分  
 場所 富津市役所4階市長応接室  
 訪問先 佐久間市長、総合政策部・平野満次長、庄次氏  
 参加者 小坂一夫(会長) 田中富蔵(副会長) 安室真弓(幹事) 松本庄次(幹事)

**【請願事項】**

- 当会は、下記事項を請願いたします。
- (1) 第一海堡の不発弾調査の実施を防衛省に対し、依頼していただきたい。
  - 第一海堡は、海堡内に不発弾がある危険性が否定できないとの理由で、上陸の許可がいただけない状態です。第一海堡の不発弾調査の実施を防衛省に依頼していただき、立入許可できる環境づくりをお願いいたします。
  - (2) 第三海堡の遺構を富津市に保存・展示していただきたい。

横須賀市追浜にある国土交通省の展示施設に保存されている四つの遺構〔①探照灯の施設、②地下通路、③観測所、④砲台砲側庫(砲台弾薬庫)〕のうち、いくつかを富津市に保存・展示していただくことをお願いいたします。

以上

**【市長の回答】**

- 請願① 第一海堡の不発弾調査について  
 (佐久間市長) 防衛大臣にお願いする。
- 請願② 神奈川県横須賀市の追浜ヤードの第三海堡の引き揚げ物について  
 (佐久間市長) 富津市新富のうみかぜ公園は、国交省港湾事務所の管轄なので湾口事務所から港湾事務所に依頼できないか。
- その他 海堡の説明版について安室幹事が体験したことを話

し必要性を説いた。

(佐久間市長)富津岬の先端は、県土木事務所の管轄なので、説明版設置には、許可がいる。説明文の下に県、市等の名を入れれば費用負担が軽くなるのではないか。松本幹事が売店の申請で慣れているので県土木への申請はやれるとのことだった。



【協議経過報告】

2009年5月12日、市長宛の請願書に対し、富津市から以下の文書での経過報告があった。

<以下、富津市の文書>

平成21年1月16日(金) (県観光課 生稲副課長)

海堡案内板設置担当は、君津整備事務所管理用地課 関村副主幹

港湾担当は、木更津港湾事務所 港湾課 白壁課長

護岸が重量のある遺構に耐えられるのか疑問とのこと。

不発弾担当は、消防地震防災課 災害対策室 渡邊副主幹

平成21年2月2日(月) (県消防地震防災課災害対策室 渡邊副主幹)

通常の不発弾処理の流れは、発見者⇒地元市町村(水平磁気探査：調査費地元負担)

⇒県(関係機関調整；自衛隊・警察・総務省)⇒自衛隊不発弾処理

不発弾処理経費(鉛直探査・堀削・埋戻費用)は、県経由市町村申請により国交付金で処理。

本ケースの場合は、この不発弾処理交付金交付要綱に規定した調査に該当するか疑問である。

総務省へ交付金の該当になるかの適否を照会する事はやぶさかではないが、調査の目的が明確でないので照会しづらい。

不発弾処理は、地元市負担の水平磁気探査で発見された場所が該当。

また、国の予算が小額なため4月～6月の申請のみ交付金の対応が可能で、残りは次年度に持ち越しされる。

(富津市)

猿島(横須賀市)の場合は、調査費に市が700～800万円負担し、処理は自衛隊が行ったと聞いている。

猿島の場合は、市が観光名所として整備する目的があったが、現段階で市は、第一海堡を観光名所での活用等考えていないので調査理由は見当たらない。

文化庁が実施した近代遺跡調査結果が発表され、その内容により再協議を願います。

平成21年5月8日(金)

君津整備事務所管理用地課 関村副主管 鎌田主査

(富津市)

東京湾海堡ファンクラブより当市に海堡案内看板設置の要望がきているが、富津岬を管理している県(君津整備事務所)で設置して頂けないか。

マラソンコース用距離表示板の設置については、協力してもらえたが如何か。

(君津整備事務所)

- ・昨年、県観光課より海堡についての話は聞いている。
- ・公園内の看板の設置等については、原因者負担が基本となり当事務所負担で看板設置等を行わない。
- ・富津市が看板等の設置準備を行えば設置場所の提供はできる。
- ・吉本県議同行のうえ県公園緑地課と直接交渉すれば進展が期待できると思われる。
- ・富津岬明治百年記念展望塔の最上部に「関東の富士見100景」銘板取付について、平成18年度に富津市役所商工観光課から占用許可申請があり、占用許可(減免)をしている。
- ・東京湾海堡ファンクラブが設置費用を負担し、市が占用許可申請をする方法も考えられる。

以上

## 東京湾海堡ファンクラブ会長にお願い

東京湾海堡ファンクラブ幹事 安室 真弓

先日、日曜で天気もよかったので、小生久しぶりに妻とドライブながら、富津岬に行き、海苔取り船の行き帰りを見、潮の香のする空気を吸いながら海堡を見ていると、隣で、小生と同年配位（70才位）の男の人と小生の娘位（50才前後）の女の人が、望遠付カメラで海堡を写していて、女の人が、「あの島は何という島か。」と聞いていたが、男の人もおからぬのか口ごもり答えられないようだった。そこで、小生、海堡クラブ員としてのオセカイから、つい、「お宅さん達は何処からお出ですか。」と話かけてしまった。すると、男の人が「栃木県から来ました。」との返事だった。そして、女の人に「あの島は昔からあった島のですか。何という島ですか。」と聞かれた。小生、日頃の講義の成果と心得、海堡の解説となってしまった。「手前の島と次の島は、海堡と言って、三島有りましたが、たしか平成17年前後に船舶の通行の障害となっていたので、第三海堡は撤去されました。明治の初期に帝都（大日本帝国の都）東京の防衛のための人工島です。」と説明をしてしまった。すると、女の人が「東京湾に、あのような島があったとは知らなかった。初めて知りました。」と男の人の顔を見て言っていた、男の人もなぜか、うなずいていた。

小生、話を続けた。「明治のはじめに築城し、明治37、8年の日露戦争の時にはロシア艦隊の一部が太平洋岸を回り、東京湾に侵入しようとして近づき、日本の艦船だけでなく、ドイツ・イギリスの船舶など7隻を拿捕又は撃沈したと言われています。しかし、湾口にこの海堡があったため、潜入出来ず帰ったとの事です。もしこの海堡が無かったら、帝都、東京が艦砲射撃をうけていたら、日露戦争の勝敗もどうなっていたか、わからなかったと思います。歴史も変わっていたでしょう。『抑止力』には成ったと思います。」と説明した。

さらに続けて、「しかし、第二次大戦敗戦後には、砲台も米軍に破壊され、放置されたままで、護岸も波に浸食されています。第二海堡は海上保安庁と消防庁が利用し、海上保安庁が管理し、第一海堡は無人です。この海堡の構築には、大勢の工夫の犠牲と汗と涙の労力で出来た海堡だと聞いていますから、地元の人としては耐え難く思い、後世までも残しておきたいと思い、今、地元で管理使用出来るよう、国・地元選出の防衛大臣と県・市に請願をしています。」と話すと、第二

次大戦を知る男の人が「同感です。頑張ってください。陰ながら応援します。私も栃木県で自民党の県役員をしていますから、機会があればこの事を地元の人に話します。」と言われ、「しかし、ここには何の説明板も表示も無いですね。」といわれた。小生が「実は、この岬は県の管理地なので、許可なく立てられないのです。」と話すと、どうも納得されないようだった。

そこで、小生は、小坂海堡ファンクラブ会長にこの事を、観光客の人にも理解を戴くためにも、説明板の取り付け許可を関係部署の方をお願いしていただきたく思います。

平成20年12月20日

（この文章は、2009年1月に行われた千葉県議会観光立県推進議員連盟の東京湾視察に参加された県議の方々へお渡ししました。）

## 旧陸軍砲台跡保存へ 海自廃止方針受け横須賀市が対策

「神奈川新聞」（2008年8月23日付）記事の紹介

### 「一級の戦争遺産」

横須賀市西浦賀の高台に旧陸軍が建設した砲台の跡地について、市が現状保存する対策に乗り出す。跡地は現在、海上自衛隊が送信施設として利用しているが、海自は同施設を廃止する方針。国による跡地利用が決まらない中、市は「保存状態も良好で、国内一級の戦争遺産。国の史跡指定を受け、後世に残したい」としている。

同所に陸軍が「千代ヶ崎砲台」を整備し始めたのは一八九四（明治二十七年）ごろ。大正期までに二十八センチ榴（りゅう）弾砲六門などが整備され、近くの観音崎などに整備された砲台とともに首都防衛に当たった。

戦後の米軍による接收を経て一九六二年からは、海自が砲台跡地の約千五百平方メートルで、本部の指令を海上の艦船に伝える「海自横須賀システム隊千代ヶ崎送信所」を運用してきた。

海自は一般人の立ち入りを制限し、砲台跡の施設を一部を除いてそのまま使用してきたので、建物はほぼ手つかずで残っている。

海自は今年に入り「役割は終わった」と、送信所廃止の方針を決定。跡地利用については防衛省で検討中というが、関係者は「所管が財務省に移れば、民間への払い下げも考えられる」という。

この動きを知った市は保存対策に着手。現状は防衛施設のため詳細な調査はできないが、今春に施設内を視察。直径数メートルの砲床のほか、イギリス積みのれんが塀で造られた通路や弾薬庫、井戸などが建設当初の原型をほぼとどめていることを確認した。文化庁と掛け合い、国の史跡指定を目指している。

市文化財担当は「これだけ貴重な遺産なので、国の理解を得て市が史跡公園として整備し、将来は一般開放したい」と期待する。文化庁も「貴重な遺跡と認識している。今後、詳細な調査結果を入手してから史跡指定を検討したい」としている。



砲台が外された状態の砲床の跡

上記は、「神奈川新聞」の記事を転載したものです。

### 総会開催日のお知らせ

第8回通常総会の日程が決まりましたので、お知らせいたします。議決案や委任状は、別途郵送いたします。

開催日：2009年6月27日（土）

場 所：富津市 食事処「かん七」（予定）

〒293-0036 富津市千種新田 1164

電話：0439-65-1417

スケジュール：

12:30～受付開始

13:00～13:20 総会（10分間休憩）

13:30～15:00 講演会（討議含む）

NPO 法人アクションおっぱま理事長

工学博士・元関東学院大学教授

神奈川大学大学院非常勤講師 昌子住江氏

「第三海堡の遺構保存について」（仮）

NPO の設立なども含めて、ご報告いただきます。

15:00～16:30 懇親会（会費制）

### ファンクラブのシンボルマーク



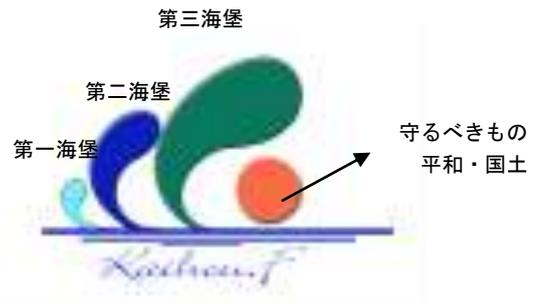
東京湾海堡ファンクラブのシンボルマークをご紹介します。シンボルマークは、幹事の朝倉光夫氏がデザインしました。

#### 【コンセプト】

①海上 ②砦 ③守る

#### 【イメージ】

砦の石の字を模したもので、全体として、大波と太陽のイメージになる。



シンボルマークを使った名刺

（役員は、このような名刺を作って活動しています。）

事務局 〒110-0015 台東区東上野 2-7-6 東上野 T.I ビル  
 (株) 地域開発研究所内 東京湾海堡ファンクラブ事務局  
 事務局長：島崎武雄 会計：高橋悦子  
 電話 03-3831-2917 FAX 03-3831-6259  
 HomePage：http://kaihoufc.com  
 E-mail：info@kaihoufc.la.coocan.jp

### 「海堡」 Kaihou No.22

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第22号

東京湾海堡ファンクラブ 2009年5月25日発行